

# 錦糸町わくわく通信

2025.3

(3月14日発行)

第48号

●お問合せ●

東都よみうり新聞社

TEL.03-6663-9010

## 錦糸公園 桜まつり

2025年3月8日①～4月13日①

駅から徒歩1分の好立地にあり多くの人がスポーツ施設や遊び場を利用する錦糸公園。東京スカイツリーと桜を楽しめるお花見スポットで、開花時期には約160本の桜が咲き誇ります。「錦糸公園桜まつり」では、公園内に提灯や行灯が飾り付けられ、芝生広場のしだれ桜やソメイヨシノをライトアップして昼と夜で異なる雰囲気の花が楽しめます。期間中の2日間、子供向けのスポーツ体験イベントも開催します。

- ◆場所 錦糸公園（墨田区錦糸4-15-1 / JR・東京メトロ錦糸町駅北口から徒歩1分）
- ◆主催 錦糸公園桜まつり実行委員会
- ◆後援 墨田区・一般社団法人墨田区観光協会・東京商工会議所墨田支部・錦糸町を元気にする会

3月22日(土)・4月5日(土)

フットサル・ボクシング・野球・  
ストリートサッカー・ハンドボール  
ゲーム感覚でスポーツ体験

「ひがしんアリーナ」を公式戦で使用するなど、  
錦糸町にゆかりのあるスポーツ団体が  
体験ブースを開設します。



開催時間：10時30分～15時30分(15時受付終了)

受付場所：水と緑と花の広場

内容：キックターゲット(フウガドールすみだ)

ミット打ち体験(株式会社DANGAN)

バッティング体験(日本プロ野球OBクラブ)

ストリートサッカー(日本ストリートサッカー協会)※4月5日のみ

ハンドボールターゲットチャレンジ(ジークスター東京)

☆小学生以下の方が参加できます。

☆参加者には記念品を贈呈します(各日先着200人)。



## ストリートサッカー 第5回 全日本PANNA選手権決勝大会

【日 時】2025年3月22日(土)  
【場 所】堅川親水公園(首都高下)  
【カテゴリー】OPEN・U-12・女性・O-40  
(リーグ戦からトーナメントへ。各試合3分)

1対1で競うストリートサッカー競技PANNA(パナ)の全日本選手権。150人のエントリーから勝ち上がってきた猛者が頂点をめざす。観覧無料。詳細は日本ストリートサッカー協会(<https://www.streetfootball.jp/zenpanna2025>)



選手たちの高度な足技も楽しめる決勝大会

## 「フウガドールすみだカフェ」リニューアルオープン FUGA COFFEE

フットサルチーム「フウガドールすみだ」がホームアリーナの「ひがしんアリーナ」(墨田区総合体育館)2階で運営するカフェが1月24日に新しくなりました。「FUGA COFFEE」は、木目調の内装で落ち着いた空間が広がり、錦糸町駅ビル「テルミナ」地下食品品街のベーカリー「アルバイカー」がプロデュースしたピザやホットドッグが楽しめます。試合観戦前後の語らいにぜひご利用ください。

### 【営業時間】

日曜～木曜 10:00～20:00  
(金・土曜日、ホームゲームの日は22:00頃まで)

### 【メニュー】

オリジナルブレンドコーヒー(350円)、生ビール(500円)、マルグリータ(グッドサイズ360円、ビッグサイズ1300円)、FUGAドッグ(1000円)ほか



特製のピザやホットドッグが食べられる「FUGA COFFEE」。3月から新メニューも加わってさらにパワーアップ!

## 2040年の錦糸町を考える

### 錦糸町まちづくりシンポジウム開催

錦糸町では、地下鉄8号線(有楽町線)の延伸事業で周辺地域にも新たな人の流れが生まれることを見据えてまちづくりに向けた動きが始まっている。一昨年からワークショップやアンケートなどで、住民や事業者、勤務者、来街者などの幅広い人々が意見を出し合いながら地域主体で今後のまちの在り方の検討を進めているのが特徴だ。2月2日には多くの人に関心を持ってもらいたいと、墨田区主催の「錦糸町まちづくりシンポジウム～2040年の錦糸町～」が、東武ホテルレバント東京で開かれた。



錦糸町に関わる人たちがまちづくりの展望について語った「錦糸町まちづくりシンポジウム」

冒頭は都立両国高校管弦楽部が出演するオープニングコンサートが開かれ、生徒たちが瑞々しい演奏で「トリッチ・トラッチ・ポルカ」「美しき青きドナウ」など3曲を披露した。山本亨区長も挨拶に立ち「錦糸町は人、物、資源が揃う唯一無二のまち。ポテンシャルがある中で今後のまちづくりをみんなで考えることで名実ともに東東京の顔になると思う」と語った。



両国高校管弦楽部の演奏

パネルディスカッションでは、錦糸町の未来像について山本区長を含む5人のパネリストが語り合い、墨田区都市

計画審議会委員を務める藤井さやか筑波大学システム情報系准教授がコーディネーターを務めた。パネリストになったのは、錦糸町駅周辺の夜間パトロール活動を町会や企業と実施する錦糸町地区暴力追放委員会の遠藤浩吉会長、人形焼「山田家」経営で地元での商売を長く続ける山田昇錦糸町商店街振興組合理事長、錦糸町の大規模商業施設や事業団体の連携の場となる「錦糸町を元気にする会」の小笠原功会長、久米繊維工業相談役で、i U情報経営イノベーション専門職大学などで教鞭を取る久米信行さんだ。遠藤さんや山田さんは、地域で安全安心の取り組みを続けることや商売をする事業者に対するルール遵守徹底の必要性を強調し、小笠原さんは商業施設がインクルーシブに取り組むことで見える可能性を指摘した。久米さんは、学生達をまち案内した時に錦糸町の個人商店での交流に魅力を感じていたことを紹介し、地域の個性につながる店を便利な場所に残す工夫について提案した。

この日は様々な地域団体の代表者により作成中の「錦糸町まちづくりビジョン」も特別に公開され、登壇者の頭上のスクリーンに映し出された。「錦糸町まちづくりビジョン」は町全体や駅周辺などを描いた4枚のイメージパースで構成され、具体的な開発計画を示したものではないものの今後のまちづくりの方向性を示す資料として3月中に区長に提言される。



パネルディスカッションの登壇者たち(左から小笠原さん、山本区長、藤井さん、遠藤さん、山田さん、久米さん)



「錦糸町まちづくりビジョン」の「駅周辺」の様子(2月2日時点のもの)